



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成15年9月調査分)

景気の現状判断DI

	平成15年6月	平成15年9月	前回調査比
茨城県	43.0	45.6	+2.6
県北地域	40.8	39.2	-1.6
県央地域	40.5	44.6	+4.1
鹿行地域	41.8	41.7	-0.1
県南地域	45.5	47.7	+2.2
県西地域	46.8	55.0	+8.2

景気の先行き判断DI

	平成15年6月	平成15年9月	前回調査比
茨城県	45.4	50.1	+4.7
県北地域	42.9	44.8	+1.9
県央地域	42.7	49.1	+6.4
鹿行地域	45.9	51.3	+5.4
県南地域	43.6	51.8	+8.2
県西地域	51.8	53.6	+1.8

平成15年10月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/joho/index.htm>

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
(1) 景気の現状判断 D I	4
(2) 景気の先行き判断 D I	5
2 地域別の動向	6
(1) 景気の現状判断 D I	6
(2) 景気の先行き判断 D I	8
3 回答率	1 1
景気の判断理由	1 2
1 景気の現状判断理由	1 2
2 景気の先行き判断理由	1 9
3 その他の意見	2 4

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、那珂郡、久慈郡、多賀郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業等			17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
	計			60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間等

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回であり、調査期日は概ね調査月の15日から25日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、「やや悪くなっている」の回答構成比が減少し、「変わらない」「やや良くなっている」の回答構成比が増加したため、2.6ポイント増の45.6となったものの、引続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIが6月調査分を下回った。

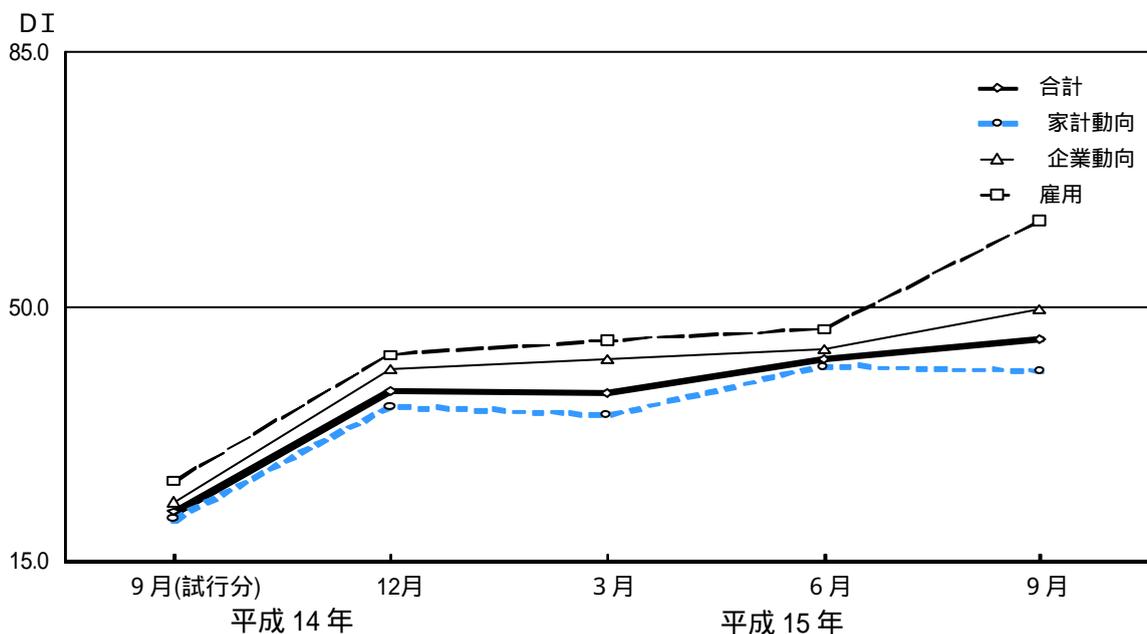
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年
		9月(試行分)	12月	3月	6月	9月
合計		21.9	38.5	38.2	43.0	45.6
家計動向関連	家計動向関連	20.8	36.3	35.1	41.9	41.2
	小売関連	23.5	30.4	34.0	43.0	41.3
	飲食関連	8.8	44.4	31.9	34.7	42.5
	サービス関連	20.5	40.9	35.8	42.3	38.0
	住宅関連	25.0	10.0	39.3	44.4	66.7
企業動向関連	企業動向関連	23.2	41.5	42.8	44.3	49.7
	農林水産業	21.9	43.8	46.4	53.6	50.0
	製造業	25.0	46.6	44.0	45.1	49.5
	非製造業	20.7	33.3	39.8	40.8	50.0
雇用関連		26.1	43.5	45.5	47.0	62.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.7%	15.5%	39.6%	39.2%
平成14年12月	3.3%	14.7%	32.6%	31.5%	17.9%
平成15年3月	2.2%	11.8%	36.2%	36.2%	13.7%
平成15年6月	1.4%	18.6%	40.7%	29.3%	10.0%
平成15年9月	1.8%	21.0%	45.2%	21.7%	10.3%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは「やや悪くなっている」が減少し、「やや良くなっている」の回答構成比が10%以上増加したため、4.7ポイント増の50.1となり、横這いを表す50を上回った。合計が50を上回ったのは平成14年12月に調査を開始して以来初めてのことであり、業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を上回った。

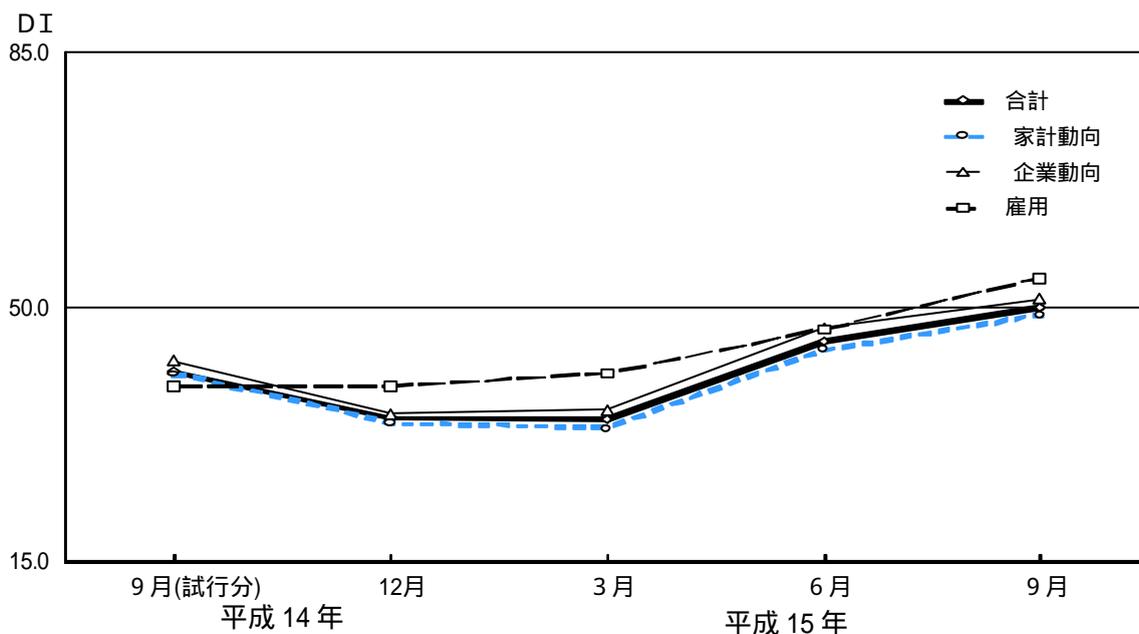
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年
		9月(試行分)	12月	3月	6月	9月
合計		41.2	34.9	34.8	45.4	50.1
家計動向関連	家計動向関連	40.8	34.1	33.4	44.2	49.0
	小売関連	40.8	32.7	33.2	41.4	48.0
	飲食関連	30.9	34.7	33.3	44.4	50.0
	サービス関連	42.8	35.6	33.9	45.4	49.4
	住宅関連	40.6	25.0	28.6	52.8	50.0
企業動向関連	企業動向関連	42.7	35.4	35.9	47.3	51.2
	農林水産業	34.4	40.6	39.3	57.1	56.3
	製造業	44.0	37.5	35.3	47.3	47.8
	非製造業	42.9	30.8	36.1	45.0	55.2
雇用関連		39.1	39.1	40.9	47.0	54.0

表1-4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成14年9月(試行分)	1.1%	8.9%	53.9%	26.2%	9.9%
平成14年12月	1.1%	7.3%	40.3%	32.6%	18.7%
平成15年3月	0.4%	10.0%	35.8%	36.2%	17.7%
平成15年6月	0.4%	16.1%	54.3%	23.2%	6.1%
平成15年9月	1.4%	28.1%	47.3%	15.7%	7.5%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断D I

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは39.2であり、6月調査分と比べて1.6ポイント下回り、下降幅が全県を通じて最も大きかった。またD I値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、企業動向関連D I及び雇用関連D Iが6月調査分を上回ったが、家計動向関連D Iが6月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月	平成15年 9月
	合計		18.0	30.3	30.1	40.8
家計動向関連		18.6	28.6	24.3	40.1	33.3
企業動向関連		13.2	30.9	39.1	42.6	45.6
雇用関連		30.0	40.0	43.8	40.0	60.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	3.5%	12.3%	36.8%	47.4%
平成14年12月	0.0%	8.8%	33.3%	28.1%	29.8%
平成15年3月	1.9%	1.9%	37.0%	33.3%	25.9%
平成15年6月	3.3%	11.7%	43.3%	28.3%	13.3%
平成15年9月	1.7%	10.3%	46.6%	25.9%	15.5%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは44.6であり、6月調査分と比べて4.1ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが6月調査分を上回った。

表2-3 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月	平成15年 9月
	合計		24.6	40.6	39.1	40.5
家計動向関連		24.3	40.3	36.1	38.6	41.7
企業動向関連		25.0	42.2	46.7	43.3	48.3
雇用関連		25.0	37.5	37.5	45.0	55.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.4%	17.9%	46.4%	30.4%
平成14年12月	3.6%	17.9%	30.4%	33.9%	14.3%
平成15年3月	3.6%	12.7%	34.5%	34.5%	14.5%
平成15年6月	0.0%	14.5%	43.6%	30.9%	10.9%
平成15年9月	1.8%	17.9%	46.4%	25.0%	8.9%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは41.7であり、6月調査分と比べて0.1ポイント下回った。業種別にみても、家計動向関連D I及び雇用関連D Iが6月調査分を上回ったが、企業動向関連D Iが6月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年
		9月(試行分)	12月	3月	6月	9月
合計		22.3	38.4	39.5	41.8	41.7
家計動向関連		22.2	33.3	40.3	38.6	38.9
企業動向関連		23.3	48.4	37.5	50.0	45.3
雇用関連		18.8	40.0	40.0	40.0	50.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.5%	16.4%	40.0%	38.2%
平成14年12月	3.7%	13.0%	37.0%	25.9%	20.4%
平成15年3月	2.0%	10.0%	40.0%	40.0%	8.0%
平成15年6月	1.8%	16.4%	41.8%	27.3%	12.7%
平成15年9月	0.0%	15.8%	43.9%	31.6%	8.8%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは47.7であり、6月調査分と比べて2.2ポイント上回った。業種別にみても、企業動向関連D I及び雇用関連D Iが6月調査分を上回ったが、家計動向関連D Iが6月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年
		9月(試行分)	12月	3月	6月	9月
合計		24.6	40.1	40.7	45.5	47.7
家計動向関連		22.1	40.2	40.4	50.8	43.9
企業動向関連		30.9	42.2	40.6	33.8	47.1
雇用関連		20.0	31.3	43.8	50.0	75.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.3%	19.3%	43.9%	31.6%
平成14年12月	7.5%	13.2%	28.3%	34.0%	17.0%
平成15年3月	3.7%	16.7%	29.6%	38.9%	11.1%
平成15年6月	1.8%	23.6%	36.4%	30.9%	7.3%
平成15年9月	3.6%	25.5%	41.8%	16.4%	12.7%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは55.0であり、6月調査分と比べて8.2ポイント上回り、横並びを表す50を上回った。また、D I値は全県を通じて最も高く、上昇幅も最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが6月調査分を上回った。

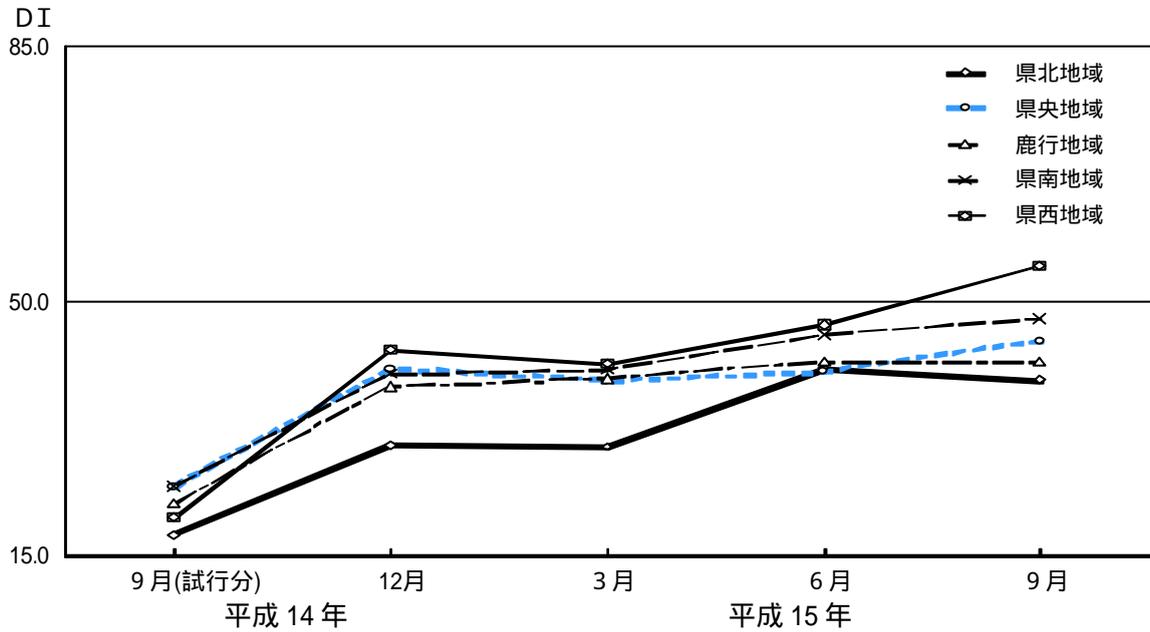
表 2 - 9 景気の現状判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年	平成 1 4 年	平成 1 5 年	平成 1 5 年	平成 1 5 年
		9 月 (試行分)	1 2 月	3 月	6 月	9 月
合 計		20.3	43.4	41.4	46.8	55.0
家計動向関連		16.4	39.5	34.6	41.9	49.2
企業動向関連		23.6	44.1	48.7	51.3	61.1
雇用関連		35.0	65.0	60.0	60.0	70.0

表 2 - 1 0 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 9 月 (試行分)	0.0%	8.6%	12.1%	31.0%	48.3%
平成 1 4 年 1 2 月	1.9%	20.8%	34.0%	35.8%	7.5%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	17.2%	39.7%	34.5%	8.6%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	27.3%	38.2%	29.1%	5.5%
平成 1 5 年 9 月	1.8%	36.4%	47.3%	9.1%	5.5%

図 2 - 1 地域別現状判断 D I の推移



(2) 景気の先行き判断 D I

県北地域

3 か月先の景気の先行き判断 D I は 44.8 であり、6 月調査分と比べて 1.9 ポイント上回ったが、D I 値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、家計動向関連 D I 及び雇用関連 D I が 6 月調査分を上回ったが、企業動向関連 D I が 6 月調査分を下回った。

表 2 - 1 1 景気の先行き判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年	平成 1 4 年	平成 1 5 年	平成 1 5 年	平成 1 5 年
		9 月 (試行分)	1 2 月	3 月	6 月	9 月
合 計		33.8	31.6	28.7	42.9	44.8
家計動向関連		35.7	27.1	25.0	38.8	41.7
企業動向関連		30.9	38.2	35.9	51.5	48.5
雇用関連		30.0	40.0	31.3	45.0	55.0

表 2 - 1 2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 9 月 (試行分)	0.0%	7.0%	36.8%	40.4%	15.8%
平成 1 4 年 1 2 月	1.8%	1.8%	38.6%	36.8%	21.1%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	3.7%	33.3%	37.0%	25.9%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	13.3%	53.3%	25.0%	8.3%
平成 1 5 年 9 月	0.0%	25.9%	44.8%	12.1%	17.2%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは 49.1 であり、6月調査分と比べて 6.4 ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが 6月調査分を上回った。

表 2 - 1 3 景気の先行き判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年 9 月 (試行分)	平成 1 4 年 1 2 月	平成 1 5 年 3 月	平成 1 5 年 6 月	平成 1 5 年 9 月
	合 計		41.8	38.8	36.8	42.7
家計動向関連		41.7	39.6	35.4	40.7	48.6
企業動向関連		46.7	42.2	41.7	46.7	50.0
雇用関連		25.0	18.8	31.3	45.0	50.0

表 2 - 1 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 9 月 (試行分)	0.0%	7.3%	60.0%	25.5%	7.3%
平成 1 4 年 1 2 月	0.0%	12.5%	42.9%	32.1%	12.5%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	9.1%	43.6%	32.7%	14.5%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	12.7%	56.4%	20.0%	10.9%
平成 1 5 年 9 月	1.8%	21.4%	55.4%	14.3%	7.1%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは 51.3 であり、6月調査分と比べて 5.4 ポイント上回り、横這いを表す 50 を上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが 6月調査分を上回った。

表 2 - 1 5 景気の先行き判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年 9 月 (試行分)	平成 1 4 年 1 2 月	平成 1 5 年 3 月	平成 1 5 年 6 月	平成 1 5 年 9 月
	合 計		42.3	35.2	33.0	45.9
家計動向関連		45.1	33.3	29.8	45.7	52.1
企業動向関連		36.7	35.9	35.7	46.7	50.0
雇用関連		37.5	45.0	45.0	45.0	50.0

表 2 - 1 6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 9 月 (試行分)	0.0%	9.1%	60.0%	21.8%	9.1%
平成 1 4 年 1 2 月	0.0%	11.1%	40.7%	25.9%	22.2%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	12.0%	30.0%	36.0%	22.0%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	18.2%	50.9%	27.3%	3.6%
平成 1 5 年 9 月	1.8%	24.6%	52.6%	19.3%	1.8%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは51.8であり、6月調査分と比べて8.2ポイント上回り、上昇幅が全県を通じて最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが6月調査分を上回った。また、全てのD Iが横這いを表す50を上回った。

表2-17 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月	平成15年 9月
	合計		46.5	34.0	35.2	43.6
家計動向関連		42.1	37.1	39.0	45.5	50.8
企業動向関連		54.4	28.1	26.6	39.7	52.9
雇用関連		50.0	31.3	37.5	45.0	55.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	5.3%	12.3%	52.6%	22.8%	7.0%
平成14年12月	0.0%	5.7%	43.4%	32.1%	18.9%
平成15年3月	1.9%	13.0%	27.8%	38.9%	18.5%
平成15年6月	0.0%	9.1%	63.6%	20.0%	7.3%
平成15年9月	1.8%	34.5%	38.2%	20.0%	5.5%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは53.6であり、6月調査分と比べて1.8ポイント上回り、D I値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが6月調査分を上回った。また、全てのD Iが横這いを表す50を上回った。

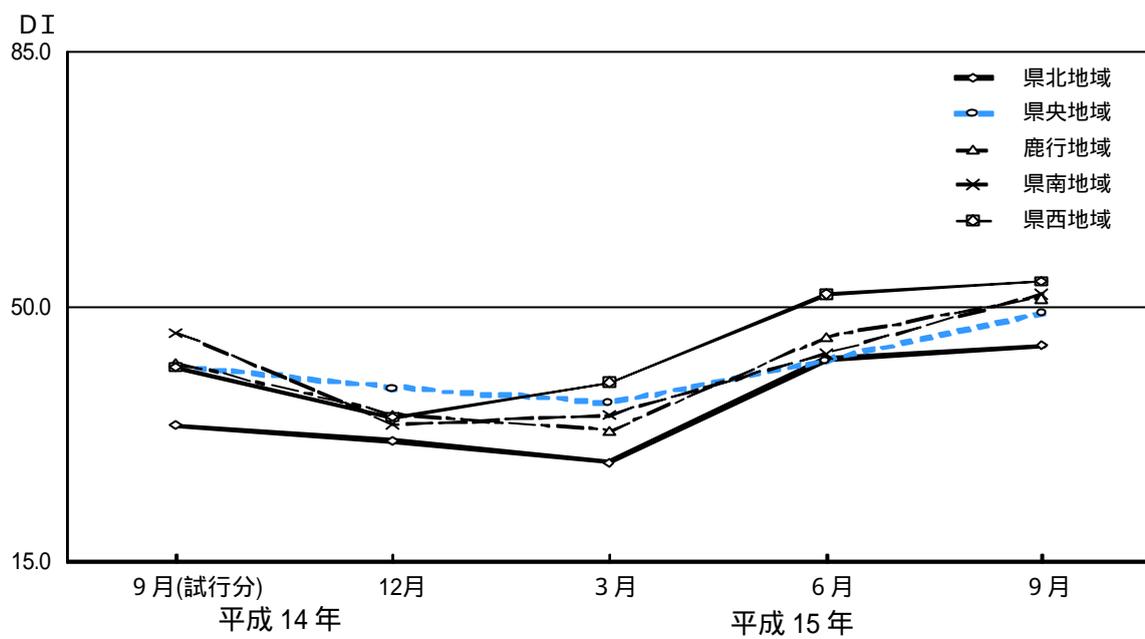
表2-19 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月	平成15年 9月
	合計		41.8	34.9	39.7	51.8
家計動向関連		39.3	33.1	37.5	51.6	52.3
企業動向関連		44.4	32.4	39.5	51.3	54.2
雇用関連		50.0	55.0	55.0	55.0	60.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	8.6%	60.3%	20.7%	10.3%
平成14年12月	3.8%	5.7%	35.8%	35.8%	18.9%
平成15年3月	0.0%	12.1%	43.1%	36.2%	8.6%
平成15年6月	1.8%	27.3%	47.3%	23.6%	0.0%
平成15年9月	1.8%	34.5%	45.5%	12.7%	5.5%

図 2 - 2 地域別先行き判断D Iの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	281 人	93.7%
県北地域	60 人	58 人	96.7%
県央地域	60 人	56 人	93.3%
鹿行地域	60 人	57 人	95.0%
県南地域	60 人	55 人	91.7%
県西地域	60 人	55 人	91.7%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	住宅販売会社	住宅建築件数が確実に増加している。
やや良くなっている	家計関連	家電販売店	従来の性能に付加価値の加わった商品の購入が増加している。
		卸売業（衣料品）	夏物商品があまり動かなかつた分、秋物商品の動きが良くなってきている。
	企業関連	林業関係者	木材価格が多少上向きになってきている。
変わらない	家計関連	製造業（輸送用機械器具）	受注量が10%増加している。
		雇用関連	学校就業関係者
	家計関連	人材派遣業	得意先から増員要請が入ってきている。
		農産物直売所	野菜等必要な物は購入するが、必要でない物は買控えている。
		小売業（靴製品）	消費者の消費行動に変化がない。
		居酒屋	客数・客単価ともに変化がない。
		観光型ホテル	前年同期と比べて客足に遜色はない。しかし、依然として低価格志向にありながらも高級感を求められているため、売上げは同一水準である。
		観光型ホテル	収入支出ともに小幅の変化に止まっている。
		ドライブイン	景気が良いという話を聞かないし、景気が悪いという話も聞かない。
		ゴルフ場	ここ数か月月入場者数が減少し、9月は幾分取り戻したが芳しくない状態が続いている。全体的に客はお金を使わなくなっており、価格競争も依然として続いている。
パチンコ店	例年の季節変動通りの営業数値で推移している。		
理・美容店	売上げ・客数ともに変化が見られない。		
企業関連	製造業（食品）	販売単価の下落が続いているが、販売数量が健康ブームに乗って伸びている。	
	製造業（一般機械器具）	業務量が極めて少ない状況に変化がない。	
	製造業（電気機械器具）	大手企業の景気低迷で受注量にあまり変化がなく、横這いの状態である。	
	製造業（電気機械器具）	受注量について、一過性の増減はあるが、平均するとほぼ横這いである。	
	製造業（電気機械器具）	会社の業績に大きな改善が見られない。	
	製造業（輸送用機械器具）	国内産業の海外シフト化に変化がない。	
	非製造業（建設業）	民間の工事は少しずつ動いているようであるが、相変わらず件数が少なく、コストも低い。	
	非製造業（金融業）	今年の夏は節電協力のため、地元企業の休暇が不規則で長期にわたった。このため、飲食業を初めとして地元商店等の売上げに伸びは見られず、下請業者の受注も不安定であった。	
	非製造業（不動産業）	依然として市場は低迷状態にあり、顧客の回遊傾向は続いているため、制約までに時間が掛かっている。また、値引要求額は大きくなる傾向にある。	
	非製造業（情報処理サービス）	受注件数が横這いである。	
雇用関連	雇用相談員	特殊技能者（NC旋盤、システムエンジニア、プログラマー、看護師、薬剤師等）を募集する事業所は増えているが、景気は相変わらず停滞している。	
	公共職業安定所	新規求人数が4か月ぶりに対前年同月比で若干増加したが、有効求人数は4か月連続マイナスの状況である。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	売上げが減少している。
		コンビニエンスストア	天候不順のため客数が減少しており、客単価の下落も依然として止まらない。
		コンビニエンスストア	相変わらず消費は低迷している。買控え、堅実消費が続いており、買上点数も依然として減少している。
		小売業（酒類）	冷夏のため、ビール類・飲料水等の売上減少が目立った。
		小売業（土産物）	今年の夏は寒くて雨が多かつたため、観光客が著しく減少した。
		レストラン	チェーン店や新しい店、安売店に人が集まっており、個人飲食店は苦戦している。
		食堂	客足が落ちている。
		割烹料理店	大手企業の休日が増え、社用の利用回数が減少した。
		旅行代理店	9月は旅行業では比較的需要の多い時期であるが、前年同期と比べて悪い状況にある。
		レジャー施設	利用者の消費単価の減少が続いている。
企業関連	製造業（電気機械器具）	電力事情による休日振替により8月の売上げが減少した。減少分の回復を目論んでいるが、外注先の廃業等により計画通りの工程が困難である。	
	製造業（電気機械器具）	受注量・業務量ともに減少している。	
	非製造業（建設業）	受注競争はまだ激しく、厳しい価格でないと受注に結びつかない。	
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	土曜・日曜の来街者が減少している。
		スーパー	嗜好品などの衝動買いはなく、目的買いのみである。
		ガソリンスタンド	石油販売業としては売上げの減少・利益の圧縮により最悪の状況であった。また、町内の小売販売業で閉店が出始めている。
		タクシー運転手	節電対策等で工場の休業が多かつた。

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	タクシー運転手	駅前も夜の街も人の出入りが少なく、売上げは3か月前と比べて大きく減少している。
		タクシー運転手	マイカーを利用したの送迎が多いため、利用客が減少している。また、自動車運代行業の参入で夜の客数も減少している。
		レジャー施設	繁忙期である夏休みがお盆に雨が降られるなどの影響により、過去に例がないほど業績が悪かった。
		クリーニング店	9月当初は残暑であったため、夏物衣料のクリーニングがでてこない。
	企業関連	水産業関係者	海流の変化(冷水系)により、不漁が続いている。

(2) 県央地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	企業関連	非製造業(建設業)	企業の設備投資(倉庫、事務所、店舗)が活発になり、景気が上昇しているように感じられる。特に自動車業、飲食業、スーパーなどの業種が積極的に設備投資を行っているように感じる。	
やや良くなっている	家計関連	ファミリーレストラン	売上額が前年比で上回っている。	
		タクシー運転手	個人の利用は変化がないが、企業の利用が増加しつつある。	
		ゴルフ場	来場者数が前年同月比で7月が600人弱・8月が150人強増加している。	
		レジャー施設	来場者が増加している。今年度から様々なイベントを実施していることが影響していると思われる。	
		レジャー施設	夏季型のレジャー施設であり、今夏は予想以上の入込みがあった。	
		建築設計事務所	企業の設備投資が少し増えてきているように思われる。また、施設の老朽化でやむを得ず改築・改修しているところが増えている。	
	企業関連	製造業(一般機械器具)	建設機械・半導体製造装置関連が良くなっている。	
		非製造業(金融業)	販売店舗において、陳列棚・ショーケース等一部改装の設備資金の相談が増加傾向にある。	
	雇用関連	公共職業安定所	新規求職者は4か月連続で減少し、有効求職者も3か月連続減少している。また、有効求人倍率も4か月連続で改善している。	
	変わらない	家計関連	商店街代表者	売上・客数ともにほとんど変化がない。客の購買動向は必要な物以外購入しないようにしているのがはっきり分かる。また、以前は新製品がでると試し買いをするようなこともあったが、今は皆無である。
百貨店、総合スーパー			個人・法人ともにまだ回復基調とは言えない。必要な時に必要な物だけ見極めて購入している。	
百貨店、総合スーパー			消費マインドは依然として厳しい状況にある。	
スーパー			前年同期と比較した数値がここ数か月ほぼ横這いである。	
スーパー			依然として、一人当たり購入金額が伸びていない。また、安売りをしても本当に必要な商品以外購入しない状態が続いている。なお、8月の冷夏・9月の残暑など例年と異なる気象要因の影響も大きく受けた。	
自動車販売店			新車販売において、下取車が7年以上使用した車が多く、車の故障・不具合による購入になっている。	
農産物直売所			月によって増減はあるものの前年比で大きな変化は感じられない。	
レストラン			前回調査期間と対前年比の落ち込み率が変わらない。夏前半の天候不順が大きな要因としてあげられる。	
レストラン			50%OFFの企画を実施した。その時は予約・問い合わせなどが多くあったが、終わってしまうとそれほど変わらない状態になってしまった。また、期間中は、家族連れが多かったが、なかなかそのような時でない家族での外食は難しいように思われる。	
観光型ホテル			夏の営業は前半天候不順で低調だったが、後半暑さが戻り集客・単価ともに前年並みに推移している。インターネットによる利用と家族連れが目立った。	
タクシー運転手			駅南口が新しくなり客が増えると期待していたが、通勤の送り迎えに自家用車を利用しているところが多い。	
ドライブイン			団体予約の客は前年並みの集客を維持しているが、お土産関係の購買力は低下している。	
理・美容店			不景気でも髪は伸びるので、それなりに客が来ている。	
住宅販売会社			依然として、客は長期住宅ローンの支払いに不安を抱えている。	
企業関連			製造業(食品)	地元客の売上げに変化がなく、目標の売上げが達成できなかった。
			製造業(食品)	景気が良くなる要素が見当たらず、相変わらず不景気である。
			製造業(出版・印刷業)	お盆が明けてから多少仕事が動いている気配も感じられるが、景気が良くなったと感じるほどではない。
			製造業(金属製品)	取引先の業績も良くなっていない。
			非製造業(輸送業)	新たな仕事の引合いがなく、あっても単価は依然として低いままである。
雇用関連		非製造業(情報処理サービス)	客からの受注状況・商談状況に変化がない。	
	人材派遣業	得意先の状況を見ても景気が良くなったという話はなく、また当社においても現状を維持するのが精一杯である。		

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	雇用関連	雇用相談員	天候不順の夏により大型店から小売店まで夏物商品が苦戦している。依然として建設業界の受注量が少なく、求人数も他の業種と比較すると少ない。中小の地場産業の設備投資には、先行不安定との慎重姿勢が根強い。
		求人広告	今の求人は、人の入替えなどが主であり、大幅な人員増や新会社設立、新規店舗オープンといった求人は相変わらずない。
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	商品単価の低下、特売品の構成比の上昇、買上点数の伸び悩み、嗜好品の供給が伸びていないなどが挙げられる。また、気温低下による農産物価格の上昇・米の不作の報道等により、消費者が敏感に反応している。
		家電販売店	客数・客単価ともに低く、商品の複数購入が少ない。
		ガソリンスタンド	7月・8月の冷夏の影響で、消費が落ち込んでいる。
		都市型ホテル	夏季明けや期末などの関係なのか、動きが鈍く感じられる。
		都市型ホテル	冷夏の影響もあり、宴会・レストランともに利用客が減少している。
		旅行代理店	イラク戦争、SARSの影響を受けた海外旅行者が国内旅行へシフトすることは梅雨の長期化もあってあまり見られなかった。インドネシアのジャカルタでテロがあり、SARSの後遺症もあってアジア方面への旅行回復はまだまだ時間がかかりそうである。
		タクシー運転手	昨年は高校総体などが開催されたため良かったが、今年は大きいイベントがないため、売上減少が続いている。
		タクシー運転手	スナック関係のタクシー利用が少なくなっており、夜遅くまで運行しても売上げが上がらない。
		ドライブイン	冷夏で来客数・売上げともに減少している。また、土産品の一個当たりの単価が安い商品を購入している。
		観光名所	客数が減少し、消費単価も減少している。
	企業関連	製造業（出版・印刷業）	顧客のIT化が進み、官公需、民需ともに少量の印刷物が減少している。
非製造業（広告代理業）		中期決算が近づくにつれ、大手クライアント(広告主)の組織改正等により、今までの広告予算が20%ほど圧縮されるなど、広告予算引き締め傾向がある。あくまで広告をなくすのではなく、もっとシビアな見積り提出が要求されたり、予算は減っても手間がかかる発注が増加している。プランニングレベル向上はもとより、もっと利益の出る体制づくりや仕入(印刷・ソフト)についてシビアにする必要がある。	
非製造業（コンサルタント業）		商店街の物販店・飲食店等の売上げが低迷している。	
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	7月・8月は冷夏で夏物商品が売れず、9月は残暑で秋物商品が苦戦している。
		ショッピングセンター	競合店が隣接しているため、客が分散し売上げが減少している。
		割烹料理店	客数が減少している。
		理・美容店	例年夏は客数が多い月であるが、開店以来の低調な客数であった。
	企業関連	製造業（一般機械器具）	受注額が3か月連続で低迷しており、危機感を感じる毎日である。

(3) 鹿行地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	スーパー	消費が上昇傾向にある。
		農産物直売所	今年度の目標として品質向上を掲げ、生産者と積極的に話し合い、目標に向かってやってきた。その結果が少しずつ出てきており、客に良い印象を与えていると感じている。
		洋食食堂	冷夏の影響により、例年より売上げが多少減少したが、前期に比べれば売上げが増加した。
		喫茶店	海水浴客が天候不順により減少したが、他の施設へ足を運んでいるため、当店へ立ち寄る客が多かった。
		住宅販売会社	30代の客を中心に来場・折衝等が増加している。
	企業関連	製造業（化学工業）	給与カットがなくなり、残業代も制限付ではあるが支給されるようになった。
		製造業（金属製品）	会社の株価が上昇している。
変わらない	家計関連	非製造業（金融業）	株価が上昇しており、米価格上昇による農家収入の増加も見られる。
		商店街代表者	景気が底の状態にあることに変化がない。
		スーパー	野菜の相場高騰により他の商品を余分に購入しないため、客単価に変化がない。
		自動車販売店	代替時期は長くなっているが、ほとんど平行状態である。
		書店	売上げが横這いである。
		観光型ホテル	昨年と比較して予約状況に変化がない。
		理・美容店	来店頻度の落ち込み、自宅調髪及び低料金店の進出で売上げは落ち込んだままである。
		クリーニング店	来客数・品物の数に変化がない。
		クリーニング店	冷夏で長雨だったため、8月下旬からカピタ衣類の持ち込みが多かったが、一時的なものだった。また、キャンペーンを行っても思うように集客できず、依然として消費者の財布のヒモは固い。
		住宅販売会社	住宅着工件数に変化がない。

回答区分	分野	業種・職種	理由	
変わらない	家計関連	ドライブイン	新米は冷夏のためやや割高となっているが順調に売れている。しかし、リンゴやミカンなどの季節初めの果物はやや不調である。また、お土産品などについては横這いである。消費者は品物の相場が安定するまで消費を控える傾向にある。	
	企業関連	製造業（食品）	発注量に変化がない。	
		製造業（窯業・土石製品）	株価・輸出等の動きは3か月前と比べて回復基調にあるが、県内の高卒者の求人倍率が0.4という数値を聞くとまだまだリストラ後の採用計画は暗く、新規・中途求職者は職がないため、景気の改善は見られない。	
		製造業（窯業・土石製品）	相変わらず仕事量が不足しており、厳しい状況が続いている。	
		製造業（電気機械器具）	社内での会話で、会社関係とプライベート両方を兼ねて「何かいい話はない？」という文句が口癖になっている人が多い。現在の景気が良くないことを意味していると思う。	
		製造業（飼料製造）	生産・出荷等の物量面での落ち込みはなくなり、横這いで推移している。	
		製造業（化学工業）	売上げ・荷動きともに若干良くなったが低いところで安定している。また、新製品の動きが予想以上に悪い。	
		非製造業（輸送業）	相変わらず貨物の動きが鈍い。また、スポット的な仕事が入ってくる時期であるが、入ってこない。	
		非製造業（金融業）	冷夏の影響もあり個人消費が依然として低迷している。また、スーパーなどでは価格競争が激しく、来店客は安定しているが利益は薄い。	
	雇用関連	人材派遣業	人材派遣に対する取引先（製造業がメイン）からの発注価格は横這いで推移している。	
		民間職業紹介業	企業からの求人申込件数が増加していない。	
		公共職業安定所	求人数が増加していない。また、来春高校卒業予定の求人数も昨年とさほど変わりがない。	
		学校就業関係者	昨年度の求人数と比較してさほど変化がない。また、求人票を出していただいた企業と話をしても景気のいい話は聞かれない。	
		雇用相談員	業種・地域を問わず、仕事量が減少していると言っている事業所が横這いの状態で続いている。	
	やや悪く なっている	家計関連	小売業（金物店）	農家への依存度が高い地域であるため、9月は稲刈りシーズンで消費が低迷している。また、8月に米の作況指数が「やや不良」と報道され、消費が慎重になっていると思われる。
商店街代表者			7・8月の冷夏と日照不足で、散々な夏であった。9月の残暑も夏商戦を補うには遅すぎた。	
小売業（酒類）			冷夏のため、飲料・ビールの販売は伸び悩んだ。また、アイス・果実等も天候不順のため、大量に購入する客が少なかった。さらに、商圏内の旅館・飲食店等の買出し量も少なく買上点数・買上単価ともに前年を下回った。	
衣料品販売店			購買が特売品に集中する傾向にある。また、それ以外の商品についても数店舗回ってから価格の安い店で購入する傾向にある。	
家電販売店			8月は冷夏のため売上げがダウンし、9月になって暑くなっても新しくエアコン購入にはいたらない。とにかく修理が多い。	
スナック			冷夏の影響で低調である。	
観光型ホテル			近隣の観光地がシーズンオフとなっており、利用客が減少している。	
小売業（菓子販売店）			例年より単価をおさえた買物が目立っている。	
タクシー運転手			売上げが減少している。	
タクシー運転手			勤務時間に変化はないが、利用客が減少している。	
タクシー運転手			運転代行業者が増加しており、一台の代行車両に数人の客を乗せていることもあるため、タクシーの利用客は減少するばかりである。	
観光名所職員			相変わらず客の財布のヒモが固い。	
割烹料理店			冷夏のため、観光客・海水浴客が少なく、例年以上に人の出入りが少ない。また、秋の収穫時期も半月以上遅れている。	
ゴルフ場		客足が遠のいており、目標の数値を達成できなかった。		
パチンコ店		客の遊技時間が短い。		
室内装飾業		住宅建築が減少している。また、部屋の装飾にお金をかけていない。		
企業関連		水産業関係者	漁業関連は、先日の漁業協同組合連合会の倒産にもあるように、加工販売が悪くなっている。	
		非製造業（住宅設備施工業）	仕事が少なく、買物をするにしても少しでも安い物を購入するという状況である。	
悪くなって いる		家計関連	小売業（薬品店）	冷夏で季節商品が動かなかった。
			タクシー運転手	客数が減少している。
	企業関連	レジャー施設	天候不順・異常気象が景況感の微かな上昇に水をさしている。	
		製造業（印刷業）	受注量が減少し、単価も下落傾向にある。	
	非製造業（不動産業）	雇用不安・給料の減少による買控えが見られる。		

(4) 県南地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	雇用関連	求人広告	求人広告は多めに推移している。また、飲食店のなかには、前年を上回っている店が多数あるという話を聞く。	
		公共職業安定所	会社都合による離職者が激減しており、求職申込者が減少している。また、求人申込数が増加し、月間有効求人倍率が上昇した。	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	買上点数が増加しており、多少高額の商品も売れてきている。	
		スーパー	来店客数が前年と比較してかなり増加している。	
		農産物直売所	売場を増設して1年が経過したが、9月も対前年比120%の伸び率で推移しており、引続き好調である。	
		小売業(各種食料品)	客単価は相変わらず高くないが、客数の増加が見られる。	
		洋食食堂	9月に入って学校関係などの弁当や各種イベント行事が増え、それなりに売上げが上昇してきた。	
		ゴルフ場	来場者が増加傾向にあり、予約状況も早めになってきている。また、社用による利用も増加傾向にある。	
		理・美容店	客は、自分の価値に見合った商品にはどんどん消費している。	
		住宅販売会社	住宅ローン金利が上昇するため、低金利のうちに住宅を購入しようとする人が増加した。	
	企業関連	製造業(食品)	8月中旬までは中元の贈り物が多く、また、夏休みは家族連れによるレストランの売上げも好調であった。	
		製造業(窯業・土石製品)	株価が11,000円台となり、景気が底割れする心配が当面なくなった。	
		製造業(一般機械器具)	設備投資の増加等、将来に向かっての動きが活発化している。	
		非製造業(建設業)	受注件数が増加傾向にある。	
	雇用関連	学校就業関係者	求人企業で製造業が昨年と比べて多くなっている。	
	変わらない	家計関連	商店街代表者	売上げが上昇しない。
コンビニエンスストア			8月の冷夏による消費の落ち込みがあったが、9月は残暑が厳しいことで昨年と比較すると売上げが伸びている。	
自動車販売店			新型車の人気が続かず、中古車も売れなくなってきている。	
和食食堂			客数・売上げともに横這いの状態が続いている。	
都市型ホテル			昨年の高校総体による売上げに対して、今年はなんとか他の団体でカバーすることができたため、特に変化はない。	
旅行代理店			6月までの国内旅行は、海外のテロやSARSの影響で前年比増であったが、夏の天候不順のため8月・9月は厳しい月となっている。	
旅行代理店			国内旅行の受注は伸びているが、単価の高い海外旅行は減少している。	
タクシー運転手			乗務員の売上げ及び客の乗車回数ともに変化がない。	
パチンコ店			営業努力はしているものの、売上げ・客数に結びついていない。また、客単価も相変わらず低い。	
建築設計事務所			住宅等リフォーム関連の受注はあるが、新設については相変わらず動きが鈍い。	
企業関連			製造業(食品)	良くなりそうな気配が感じられるが、気配だけでなかなか現実味のあるものが見えてこない。
			製造業(コンクリート製造業)	予算対比の達成率は3か月前よりは向上しているが、本来6月頃に出荷・売上げとなるべき受注が後ろ倒しになったことによるものである。
		非製造業(建設業)	売上げが一向に伸びない。一契約の受注額が相変わらず低く、経費の加算が続いている。	
		非製造業(建設業)	相変わらず、民間の新築建築工事の受注は低迷を続けており、景気は悪い状態が続いている。	
		非製造業(輸送業)	貨物の種類により入出庫に変化はあるが、全体としてはあまり変化がない。	
		非製造業(不動産業)	不動産購入者の若年化とそれに伴う低価格物件の売買が増加しているため、件数をこなさないと売上維持が見込めない状態である。	
		雇用関連	人材派遣業	顧客先からのオーダーが若干ながら増えはじめているが、その一歩で解約する顧客先もある。
			雇用相談員	3か月前と比較して、好転しつつあると思われる業種は見られなかった。衣料品販売業など今夏の天候に大きく影響された業種もあるが、その他の小売業については、売上げに変化は見られなかった。一方、土木・建築業等は依然として低迷しており、また運送業等についても荷動きに好転の兆しはない。下請け企業等も受注の低迷が続いている。
やや悪くなっている		家計関連	スーパー	売値競争が激しく、客数が増加しても売上げに結びつかない。
			スーパー	冷夏で飲料関係が昨年実績にいたらなかった。また、在庫処分として、昨年より大幅に価格を下げて販売する店が多く、低価格競争となり客単価を下げた。
	都市型ホテル		法人需要及び個人消費ともに低迷している。法人企業では、周年行事・社員旅行等の自粛があり、個人消費については、冷夏の影響があった。	
	タクシー運転手		月の売上高が40万円に届かない。	
	タクシー運転手		駅構内で営業しているが、1回動くのに3時間ぐらい待っている状態である。	
	タクシー運転手		一日の営業回数が12~13回で終わってしまう。また、夜の利用客が減少している。	
	タクシー運転手		駅構内での待機時間が長くなり、売上げも減少している。	
	理・美容店		客数・売上げともに減少している。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	家電販売店	同じ内容でも単価の安い商品を購入する客が多く、客単価が減少している。
		ガソリンスタンド	ガソリンの販売単価が減少している。また、8月・9月は天候によって8割方売上げが決まってしまうが、今夏は天候不順で売上げが減少した。
		寿司店	売上額・客単価ともに減少している。
	企業関連	製造業（食品）	商品単価・客単価ともに低下している。
		製造業（食品）	冷夏の影響が大きく、個人消費が伸びていない。
		製造業（一般印刷業）	この業界では2月・8月の業務量が少ないと言われているが、その通りになった。

(5) 県西地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	製造業（食品）	お中元商戦も順調に推移し、冷夏の影響も受けずに業績を伸ばすことができた。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	安い商品を求めて買い歩く客が以前より減少している。
		家電販売店	残暑により、本来低迷に向かう季節商品（特にエアコン）の動きが好調である。
		農産物直売所	売上げが増加している。
		洋食食堂	新店舗になり、客が5倍に増えた。
		都市型ホテル	4月から6月は製造業・営業等の出張が少なかったが、7月頃から動いてきている。
		旅行代理店	SARSが落ち着き、夏休みを迎えたことにより、一時的ではあるが利用客が増加した。
	企業関連	農業関係者	輸入農作物の減少により、価格が若干上昇している。また、消費者のニーズが安全安心に向けられており、国内産が見直されている。
		製造業（印刷業）	株価が上昇し、気持ちの上でもやや良くなっている気がする。
		製造業（石材業）	石材業界は、9月が最も忙しい月であり受注量が若干増加している。しかし、業界全体でみると勝ち組と負け組の二極化傾向にある。
		製造業（化学工業）	例年8月・9月は、受注が少し減少するが、今年は減少しなかった。また、来客件数が増加している。
		製造業（一般機械工業）	受注がなかった会社からも仕事が増えるようになってきている。
		製造業（電気機械器具）	取引先で増産計画の話があったが、それが現実となってきている。
		非製造業（倉庫業）	冷夏により、例年だとあまり生じないお菓子類の保管があったため、忙しかった。
		非製造業（不動産業）	不動産の売買客が増加し、契約数も増加している。
雇用関連	人材派遣業	求人数が多くなっている。	
	求人広告	製造業の求人が、派遣ではあるが増加している。	
	公共職業安定所	求人は増加傾向、求職者は減少傾向で推移している。求人については、主幹産業である製造業からの求人が増加している。サービス業の増加は、業務請負の製造・検査などの求人によるものである。	
	雇用相談員	職種によっては、求人事業所ができてきている。	
変わらない	家計関連	スーパー	客数は前年比を上回っているが、客単価が減少しており、売上げが伸びていない。
		スーパー	一人当たりの客単価・買上点数ともに3か月前と比較して変化がない。
		自動車販売店	商店街に活気がなく、安売りの時は混雑するが、日常は閑散としている。
		衣料品専門店	売上げが上昇しても一時的である。
		ガソリンスタンド	天候の回復により販売量は伸びているが、相変わらずの安値競争により適正なマージンが得られず、厳しい状況である。
		寿司店	ランチ・宴会ともに客数に変化が見られない。
		和食食堂	売上は前年比95%で推移している。
		一般食堂	個人営業店はリストロを導入しながら頑張っているのが現状である。
		タクシー運転手	仕事量及び水揚金額ともに変化がない。
		タクシー運転手	毎日の仕事を通して見ると、景気が良くなっているようには思われない。
		ドライブイン	夏休みの売上げはほぼ前年並みで、良くもなく・悪くもなくという状態である。
		ゴルフ場	価格競争により集客をしていかなければならない状況が続いている。
		ゴルフ場	来場者数は前年同期比でやや減少している状況が続いている。プレー料金を中心とした競争激化による影響と思われる。
		レジャー施設	夏休みを迎え来場者を期待したが、思ったよほど来場者がなかった。
		レジャー施設	冷夏プラス長雨により海や山へ旅行を考えていた人が計画を中止し、温泉施設の利用が多かった。しかし、夏の商売の落ち込みは大きく全体としては変わらない。
		理・美容店	売上げが悪い意味で変わらない。
		建築設計事務所	デフレが止まらず、単価が厳しい状況が続いている。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業関連	農業関係者	米価は高騰したものの、全体的に生産物価格が安値で安定している。
		製造業（輸送用機械）	関係業種（自動車部品製造）については若干忙しさが見受けられるが、他の業種については依然として仕事量が少ない。
		非製造業（金融業）	卸売・小売店、食堂等の売上低迷が続いており、土地価格も下落傾向が続いている。また、農産物価格は上昇気味であり、悪い状態は変わらない。
	雇用関連	学校就業関係者	新規学卒者の求人受付が開始されたが、先月の求人数と変化がない。
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	売上げが前年比で大幅に下回った。客が節約指向に移っている。
		都市型ホテル	夏季イベントに力を入れたが、夏らしい夏でなかったため、そのイベントの売上げが伸びなかったことが尾を引いている。
		理・美容店	月前半は残暑により客数も多かったが、後半は涼しくなり客の来店頻度が鈍ってしまった。
	企業関連	製造業（木材業）	一棟新築工事が少なく、リフォーム関係の工事が多くなってきている。また、受注金額も減少しており利益がでない。
		非製造業（広告業）	まだまだデフレが止まっていないため、売上げを維持するのが精一杯で経常利益は減少している。
悪くなっている	家計関連	タクシー運転手	客に最近の景気の動向を聞かれることが多いが、答えるのがつらくなるほどに動きが少なくなっている。
		ドライブイン	今年の夏は天候が不順であったため、レジャー客の足が少なかった。
		クリーニング店	冷夏の影響で予想以上に利用客が減少した。

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	卸売業（衣料品）	企画物の商品が好調である。
		割烹料理店	不景気ながらも忘年会シーズンになるため、利用客の増加が見込まれる。
		観光型ホテル	株価の上昇気運が、景気上昇につながると思われる。
		タクシー運転手	夏季に比べて交通量が多くなっている。また、観光の予約がある程度入っている。
	企業関連	水産業関係者	海流がそろそろ正常に戻ると思われる。
		製造業（電気機械器具）	業種によって多少景気の変動はあるが、株価の上昇・半導体製造の回復が見られるので、良くなると思われる。
		製造業（電気機械器具）	周りの景気も上向いているようであり、当社の製品を使用する企業も上り調子のように感じられる。
雇用関連	学校就業関係者	新規契約が3・4件見込まれる。	
変わらない	家計関連	自動車販売店	夏のボーナスが少しカットとなり、冬のボーナスも同様となりそうなので、変わらないと思う。
		農産物直売所	客と話をしても、良い材料が聞かれない。
		小売業（酒類）	下請企業の景気が街の活性化に連動しているが、良くなる要素が見当たらない。
		観光型ホテル	今後の行楽シーズンに期待したいが、現実的には景気が良くなる要素が見当たらない。
		観光型ホテル	予約状況から鑑みるかぎり前年並みと思われる。
		タクシー運転手	12月は特別な時期なので売上げはアップすると思うが、景気は変わらないと思う。
		ドライブイン	秋の行楽の繁忙期となるため観光地は良いが、産業によって差があるため全体としては変わらない。
		ゴルフ場	最近の新聞報道等で幾分回復の兆しがあると言われているが、当地域への波及はまだ先のことと思われる。
		パチンコ店	プラスの要因もマイナスの要因も今のところ考えにくい。
		住宅販売会社	ローン控除減税の行方に左右されるが、ここ3か月は駆け込み的な需要があると思われる。
	企業関連	製造業（食品）	株価上昇や一部企業に設備投資がでていますが、全般的には中小企業等への影響は変わらない。
		製造業（電気機械器具）	受注量の大幅増は期待出来ず、景気は現状で推移すると思われる。
		製造業（輸送用機械器具）	海外シフトの傾向は今後も続くと思われる。
		非製造業（金融業）	年末は例年の如く一時的に受注の伸びは見られると予想されるが、受注単価は依然横這いで上昇の兆しはなく、当面現状のまま推移すると思われる。
		非製造業（不動産業）	住宅ローン金利が久し振りに上昇する気配であるが、不動産市場にどの程度影響を与えるかももう少し様子を見ないと分からない。
	雇用関連	雇用相談員	受注があっても、単価を安く抑えられているため、忙しさだけが増えて利益確保に結びつかない。
		求人広告	中小企業、個人商店等から良くなる状況の話は聞かれず、しばらく厳しい状況は続くと思われる。
		公共職業安定所	早期退職の実施計画が数社あり、引続き厳しい状況が続くと思われる。
	やや悪くなっている	家計関連	スーパー
小売業（土産物）			客は販売価格を安くしても、必要な物以外購入しない。
小売業（靴製品）			冷夏の影響で、農家の米や野菜の収穫量が減少している。
レジャー施設			一回の来園で消費する金額が減少している。
企業関連		レジャー施設	料金設定の高い乗物の利用者数が減少している。
悪くなっている	家計関連	製造業（電気機械器具）	2・3か月先が全く見えない。
		非製造業（建設業）	当面好転する要素は無いと思われる。
		商店街代表者	景気回復の要素が全く見当たらない。
		スーパー	買上点数の減少及び商品単価の下落により売上げが減少している。
		コンビニエンスストア	大型店の夜間進出等過当競争が激化しており、今後の見通しも良い兆しはない。
		レストラン	昔から経営している個人飲食店経営者は、働けるところまで働いて終わりにしたいと考えている人が多い。
		食堂	会社（特に建設会社）の仕事が少ないように思われる。
	タクシー運転手	飲食店関係者の利用が減少している。	
企業関連	クリーニング店	大手チェーン店の進出により安売合戦が続いている。	
企業関連	製造業（電気機械器具）	8月の受注減が大きく影響している。	

(2) 県央地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	企業関連	非製造業（建設業）	企業の設備投資が活発になったということは、経済に大きな動きがあるということだと思われる。また、営業等の会議でも物件数が増加していると報告されている。	
	家計関連	家電販売店	映像商品の需要が増加することが見込まれる。	
やや良くなっている	家計関連	割烹料理店	忘年会の時期になるので、客数が増加することが見込まれる。	
		都市型ホテル	忘年会の予約が今月からできており期待できる。	
		ドライブイン	行楽シーズンに入り団体客の予約が増加している。また、3連休になる週が多いので、客数の増加が見込まれる。	
		理・美容店	年末は、パーマやカラーなどで客単価がアップする。	
		企業関連	製造業（一般機械器具）	現状を打破するための施策を計画（今まで海外市場のみで販売していた低価格商品のあるキャンペーン期間中のみ特別価格で販売し、他の商品への波及効果を目論む）し、実行に移すため、何らかの効果が出るものと期待している。
	雇用関連	雇用相談員	株価上昇に伴う株式の含み益が上昇ムードになり得る。また住宅建築において、金利上昇前の駆け込み申し込みや住宅ローン減税を受けるための建築が予想される。	
	変わらない	家計関連	商店街代表者	これだけ長い不況が続くと急激に景気が変化するとは思えない。
			百貨店、総合スーパー	株価上昇や企業の設備投資意欲が若干上昇しても、消費にすぐ結びつくとは考えにくい。
			スーパー	現在の状況を打破すべく、商品入替えや棚替え等様々な策を講じているが、あまり良い効果が得られていない。
			スーパー	供給先が過剰な状況（オーバーストア化）において、消費者はより安い商品求めて動いている。
自動車販売店			客の中には、冬のボーナスが期待できず現在使用している車を修理しながら乗るといった話を聞く。	
レストラン			企業の接待で単価が少し下落している。	
観光型ホテル			予約状況は、10月以降も前年並みに推移すると予想される。	
旅行代理店			一般企業の旅行需要（職場旅行・出張旅行）が相変わらず伸び悩んでいる。また、旅行企画商品の安売りが収益の足を引っ張っている。	
タクシー運転手			企業のタクシーチケット利用の減少、飲食店街の低迷など明るい兆しはなく、大きな変化はないように思われる。	
観光名所			観光シーズンに入るが、これまでの状況からみて変化はないと思われる。	
レジャー施設			団体客の予約状況に変化が見られない。	
建築設計事務所			物件数は多少増えているが、規模の小さな物が多い。また、公共事業の発注は少なくなっており、まだまだ先行きは不透明である。	
企業関連			製造業（出版・印刷業）	景気が良くなると判断できる材料が見当たらない。
		製造業（土石製品）	物が動く様子が見えてこないなか、金融機関からの借入金利の上昇により、資金繰・収益力の低下が懸念される。	
		製造業（金属製品）	新製品の見直し依頼がない。	
		非製造業（輸送業）	年末に向って、貨物の動きが活発になると思われるが、米の作況によっては、消費等に影響がでるかもしれない。	
		非製造業（金融業）	一時の低迷期は脱したように思えるが、このまま右肩上がりになるような設備資金のニーズの強さは感じられない。	
		非製造業（広告代理業）	年末に向けた広告戦略を進行しており、商機を逃さない営業頻度と質でカバーできる。	
雇用関連		非製造業（情報処理サービス）	商談状況から判断すると、あまり明るい材料が見当たらない。	
	人材派遣業	悪くなる得意先、良くなる得意先があるにしても、総体的には変わらないと思われる。		
	求人広告	毎年10月頃から求人数は増加するが、今年はまだ分からない。一時住宅関連の求人に動きがあったが、現在は良い話は聞かれない。		
	公共職業安定所	管内の業況調査において、先行きについて好転・やや好転と回答している事業所が増加しており、悪化・やや悪化と回答している事業所が減少している。		
	スーパー	60才を過ぎた方の保険加入が増加するなど、心理的に「生活防衛」の意識が働いていると思われる。よってたとえ収入が増えても消費につながるとは思えない。		
やや悪くなっている	家計関連	都市型ホテル	予約状況をみると、例年利用してもらっている宴会が取りやめになっているものがあるなど、前年と比べて減少している。	
		タクシー運転手	政府の発表では景気が良くなっているというが、一般庶民の生活は楽ではない。リストラによる人件費カットなどで撃っている企業が多いのではないかと。	
		ドライブイン	年末の賞与が昨年より減少すると思われるので、消費動向も低下すると思われる。	
		ゴルフ場	プレー予約状況に伸びが見られない。	
		企業関連	製造業（出版・印刷業）	過当競争に拍車がかかり、採算の取れない価格での受注が横行している。
	非製造業（コンサルタント業）	方策はあるが、力のない事業所は実践できない。		
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	物が動かなくなっており、今後良くなる条件が見当たらない。	
		ショッピングセンター	キーテナントであったスーパーが退店したため、来客数がさらに減少することが予想される。	
		理・美容店	寒くなるので、客数はさらに減少すると思われる。	

(3) 鹿行地域

回答区分	分野	職種	理由
良くなって いる	家計関連	農産物直売所	品質向上・宣伝等に力を入れ、より良い商品を店頭と並べて、客との会話を大切にしていって地域密着の店作りを目指していくことによって、引続き好調を維持できると思われる。
		小売業(金物店)	コメの収穫は平年並みと聞くが、米価は値上り気味であり、農家の収入増につながれば消費に回って景気のアップにつながるのではないかと考えている。
やや良くな っている	家計関連	商店街代表者	企業に回復の兆しが見られ、株高による景況感が発生している。使うきっかけが生まれれば、個々人の購買意欲がでてくる。
		小売業(薬品店)	夏があまりに悪かったため、これ以上落ち込むことはないと思われる。
		観光型ホテル	飲酒運転を避けるために、宿泊が可能な場所を選ぶ人が増えており、忘年会の利用客に期待できる。
		タクシー運転手	年末を迎え、現在よりは良くなると思われる。
		クリーニング店	コート・ジャンパーなど単価の高い品物が出てくる。
		企業関連	水産業関係者
	製造業(食品)	年末に向けて増産体制に入る。	
	製造業(窯業・土石製品)	株価が回復し好転の兆しはあるものの、好転要因として外国の投資家によるものが大きく、このまま順調に行くかは不透明であると思われる。	
	非製造業(輸送業)	10月1日からのディーゼル排ガス規制により、都内他周辺への運送の仕事に格差が出てくると思われる。	
	変わらない	家計関連	商店街代表者
スーパー			景気が良くなる要素が見当たらないため変わらないと思う。
家電販売店			企業の黒字が聞かれるようになったが、リストラ等で利益が出て、なかなか全体の景気が良くなる様子が見えない。
自動車販売店			単価が落ち着いてきている。また、個人企業のオーナーから、経費の削減等がかなり社員にも浸透してきており今が我慢のしどころであるという話が聞かれる。
書店			商店街への来客数が減少してきている。
タクシー運転手			駅前も人影がなく、どうにもならない状況である。
タクシー運転手			運転代行業者が増え続けている状況においては、タクシーを利用する客が増加することは考えられない。
洋食食堂			前年比をマイナスにしない状態で営業を続けることができれば、経営努力により次の展開を考えることができる。
割烹料理店			人を引きつける場所・催しものがなければ、景気が悪いのは変わらないと思われる。
理・美容店			客との世間話のなかで、不景気感が若干和らいできていると感じる。
ドライブイン			今年は冷夏など天候が悪い日が多かったため、旅行者が減少した。また、農産物にも悪影響があり、直売所への影響が考えられる。しかし、地元客のリピーターは増加しているため、総合的には横這いであると思われる。
企業関連			製造業(窯業・土石製品)
		製造業(飼料製造)	悲観する材料はないものの、楽観できる材料もない。
		非製造業(金融業)	企業の倒産、失業等収入面においての不安があるため、個人消費の拡大は見込めない。
		雇用関連	人材派遣業
雇用関連		公共職業安定所	管内企業に対するアンケート調査結果で、今後の生産及び売上見込みについて「横這い」と回答する企業が多い。
		学校就業関係者	新聞広告を見ると、派遣業の募集がかなり見られるので、企業の業績はまだ回復していないと思われる。
		雇用相談員	正社員の採用を控え、繁忙期にはパート・アルバイトを雇用し対処している事業所がこれまでと同様に多い。
		家計関連	衣料品販売店
やや悪くな っている		家計関連	小売業(菓子販売店)
	タクシー運転手		客に話を聞いてみても、景気が良くなっているという話は聞かれない。
	観光名所職員		気候が寒くなりイベントも少なくなるので、人が来なくなる。
	ゴルフ場		周りのゴルフ場はたくさん倒産しており、会員制でなくなったゴルフ場は単価を下げているため、景気の良くなる要因が見当たらない。
	喫茶店		シーズンが終わり、固定客中心となる。
	クリーニング店		冷夏で長雨だったため、米やその他の農産物に影響がでた話をよく聞く。消費への影響が心配される。
	室内装飾業		公共用及び住宅の建築は望めず、増築も見込めないため、景気が良くなる要素は見当たらない。
	企業関連	農業関係者	天候次第で変化する農産物が、冷夏のため成長が悪く、出荷前に売り物にならないものがでてきている。
		製造業(化学工業)	中東情勢の影響で、石化原料の価格が上昇しているが、製品への転嫁はユーザーの圧力が強く遅れそうである。
		非製造業(住宅設備施工業)	見積量が少ないため、3か月先は現在より悪くなっていると思われる。

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	企業関連	製造業（印刷業）	受注量は一年の内でも多くなる時期であるが、現状を見ると昨年より減少すると予測される。

（４） 県南地域

回答区分	分野	業種・職種	理由		
良くなっている	企業関連	製造業（食品）	暮のギフト商品が1年間で最も売上げの多い時期である。		
やや良くなっている	家計関連	スーパー	前年比の売上高が徐々に伸びつつある。		
		スーパー	来店客の客単価がほんの少しではあるが上昇してきているので期待できる。		
		小売業（各種食料品）	売上げ・人の流れが上昇傾向である。		
		洋食食堂	夜の部のパーティーが多くなってくる時期なので、仕事は増えると思われる。		
		洋食食堂	通常来店しない客が集中する時期であり、すでに年末の予約が入ってきている。		
		和食食堂	社会全体の景気状況が良くなりつつある中で、客の消費が増加することが期待できる。		
		都市型ホテル	暮の忘年会等で宿泊を伴った予約が入ってきており、宿泊については多少売上げが増加すると思われる。		
		ゴルフ場	予約状況の好調さが先行きの明るさを物語っている。		
		パチンコ店	業界全体が年末に向けて力を入れてくる時期であり、全体の客数は増加すると思われる。		
		理・美容店	お祝い事で着物を着付けにくる客が多くなると思われる。		
企業関連	企業関連	製造業（食品）	年末に近づき商品が現在よりは動くと思われる。		
		製造業（一般機械器具）	新製品が好調で在庫切れの状態にあり、今後の消費への期待も大きい。		
		非製造業（建設業）	大口の契約はないが、見積りなどの引合いが徐々に増加に転じており、これから大口契約に繋がる可能性がある。		
雇用関連	人材派遣業	「勝ち組」・「負け組」の状況が明確に表れ、今後は若干ずつながら需要増が見込まれる。			
変わらない	家計関連	スーパー	低価格競争がこれからも続くと思われる。また、ボーナス時期であるが、夏のボーナス時は売上実績が減少したので、冬も期待していない。		
		コンビニエンスストア	消費者の購買意欲は変わらないと思われる。理由として消費者は過去と違い必要な物しか購入しない状況が続いている。価格が高くて売れている商品もあり消費者の目は厳しい。		
		旅行代理店	今後の政局次第（解散総選挙）では、旅行需要が鈍る可能性がある。その一方で、海外に行きたいと思う潜在感は強く、世界情勢の不安が払拭できれば回復する状況にもある。		
		旅行代理店	単価の高い海外旅行の受注が伸びないと景気回復が期待できない。		
		タクシー運転手	景気の良くなる話はあまり聞かれない。		
		理・美容店	消費者は、自分に関心のある事柄を探っている時期であり、消費は縮小または現状維持の傾向にあると思われる。		
		住宅販売会社	住宅金融公庫の金利が上昇し、少し様子を見る傾向が出てくると思われる。		
		企業関連	企業関連	農業関係者	周囲を見て農機具の更新などが控えられており、米相場の高騰は景気へ反映されないとと思う。
				非製造業（建設業）	新築工事の引合いは多少でているが、なかなか成約しない。
				非製造業（不動産業）	特徴のある営業展開をしていかないと生き残っていくことが難しくなっており、業界の差がでてきている。
雇用関連	雇用相談員	事業主に伺ってみても、現在の状況から景気が好転する要因は特に見られず、個人消費の伸びも期待できない。設備投資については、慎重にならざるを得ず、今後の状況を見極めてから検討したいとの話が多い。			
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	夏場の天候不順で、秋から冬の農作物が心配される。		
		家電販売店	ボーナスが例年通り支給されるのが不安を感じている人が多い。		
		自動車販売店	良くなる要素が見当たらず、ボーナス商戦が不安である。		
		都市型ホテル	宿泊及び婚礼の12月期の予約状況から判断すると更なる悪化が予測される。また、企業の賞与月数はダウンしており、忘年会は実施するが、安価な忘年会プランへの移行が予想される。		
		タクシー運転手	駅及び病院へマイカーで迎えに来る人が多く、タクシーになかなか乗らない傾向にある。		
		タクシー運転手	30分ぐらいの待ち時間であれば、タクシーを利用せずにバスを利用する客が多い。		
		タクシー運転手	長距離を利用する客が減少しており、企業のチケット利用も減少している。		
		タクシー運転手	企業の整理・縮小によるリストラの声が多く聞かれる。		
		企業関連	企業関連	製造業（食品）	冷夏の影響で米をはじめ農産物の高騰が予想され、個人消費もさらに厳しくなるのではないかとと思われる。
				製造業（コンクリート製造業）	受注状況は低調であり、販売価格に下げ止まりが感じられない。
悪くなっている	家計関連	寿司店	米、野菜の価格が上昇している。		
		企業関連	製造業（食品）	年末商談の進み具合をみると、当初計画よりも下方修正になる可能性が高い。	
	企業関連	製造業（一般印刷業）	ダンピング競争が激化している。		

(5) 県西地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	家電販売店	年末に向け、AV機器・TVなどが今後新しく開始される地上波デジタル放送等の話題性に富んでいる。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	10月に中心市街地の空き店舗に公共施設が移転する予定であり、人の往来が増えると思われる。
		商店街代表者	阪神タイガースの優勝で商店街も「よーし頑張ろう」という気になっている。
		ガソリンスタンド	大型スーパー等が開業予定であり、消費が活発になると思われる。
		都市型ホテル	年間を通して一番忙しい時期であり、各種宴会等の予約状況が見られる。
		都市型ホテル	好調な企業がリード役となって、好調な状況が続いていくと思われる。
		旅行代理店	これから秋の紅葉シーズン・社員旅行シーズンを迎えるので、良くなると思われる。
	企業関連	農業関係者	WTO交渉が決裂し、若干農業分野の景気上昇の要因になると思われる。
		製造業（食品）	最大の商機である年末を迎え、販売実績の更なる向上が見込まれる。
		非製造業（倉庫業）	年末であり、また、工業製品も増産される予定であるため、現在よりもやや良くなっていると思われる。
		非製造業（不動産業）	売買客・契約数が増加しているばかりでなく、広告等の問い合わせも増加傾向にある。
	雇用関連	非製造業（コンサルタント業）	新築住宅の着工が目につくようになっている。
		求人広告	年末年始向けの求人や賞与支給で人の動きがあると思う。
公共職業安定所		昨年と比べて雇用保険の資格喪失者のうち事業主都合（解雇者）の数が大幅に減少している。また、雇用保険受給者も減少傾向で推移している。さらに、倒産・人員整理事業所も減少している。	
変わらない	家計関連	雇用相相談員	高校生の就職活動が活発になり、事業所からの求人が増加すると思われる。
		スーパー	この夏からボーナスへの社会保険料控除額が増加し、ボーナスの手取額が大幅に減少したため、消費を抑える傾向が冬にかけて加速する。
		寿司店	今後の宴会予約状況を見ると、お祝い事・法事関係の予約だけで、会社関係の予約が少ない。
		一般食堂	景気の回復を待つよりも、経営者個人の意識改革によって景気の差が現れるのではないかという意見が多い。
		タクシー運転手	政府の発表では景気が上向きに修正されているが、自分たちのところにその状況がくるのは、まだまだ先のことであると思われる。
		タクシー運転手	タクシー業界に限らず、全ての業種が低迷していると思われる。
		ドライブイン	秋の観光シーズンが近づいてきたが、外食部門の伸び悩みが続いており、売上増加はあまり期待できない。
		ドライブイン	今年は米が不作で値上げが予想されるので、消費者の財布のヒモが固くなると思われる。
		ゴルフ場	企業としては、まだ人員削減やコストの見直しなどをしていかなければならないと思われる。
		ゴルフ場	来場者の顔ぶれに変化が見られず、当面横這いで推移すると思われる。
		レジャー施設	何か変化がない限り現状のままだと思われる。
		建築設計事務所	どんな小さな仕事でも見積合せをさせられ競争となる。
	企業関連	農業関係者	生産物価格の低迷が回復しない限り期待できない。
		製造業（木材業）	景気が回復する要素が見当たらないため変わらないと思う。
		製造業（化学工業）	顧客から発注が減少するという話は聞こえてこない。
		製造業（電気機械器具）	上向きの製品もあれば、下向きの製品もあり、総体的には変わらないのではないかとと思われる。
		製造業（輸送用機械）	消費マインドが盛り上がっていない。
		非製造業（建設業）	一つの工事に対し数社の見積り・入札のため、受注金額のダウンはより大きくなるばかりである。
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	特売時の目玉商品にいたっても必要以上に購入しない。
		自動車販売店	パート社員が増加しているという話を聞く。また、異常気象による農作物の影響が懸念される。
	和食食堂	外食産業全体で5%から6%売上げが減少している。	
雇用関連	学校就業関係者	新規学卒者の求人数が伸びていない。	
悪くなっている	家計関連	レジャー施設	天候不順による野菜・果実・米の価格が高騰することが予想されており、消費が低迷すると思われる。また、農作物の盗難事件が発生しており、農家の方も安心してられない状況にある。
		クリーニング店	衣替えの時期に利用客が増加しないと、これまで以上に悪くなると思われる。
	企業関連	製造業（石材業）	12月・1月が石材業界では、最も仕事が少ない時期であるため。

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	消費者の財布のヒモはますます固くなっている。
	スーパー	正規のクレームに加えて、「うつぶんばらし」のクレームが増加傾向にある。
	コンビニエンスストア	業種・業態に限らず、勝ち組と負け組がさらにはっきりしている。
	小売業(酒類)	大型店の進出が目立ち、小売業の物販店の廃業が止まらない。
	小売業(土産物)	どの業種からも景気の良い話は聞かれない。
	小売業(靴製品)	宝くじを買う人の一人当たり購入金額が多くなっている。
	卸売業(衣料品)	男性より女性の方が動きが良くなってきている。
	食堂	客は、余分な物を購入しない。
	観光型ホテル	宿泊に対する高度な要望があるが、価値観が合えば価格にとらわれていないようである。一方、日帰りは安価な商品が求められている。
	観光型ホテル	今年の夏の天候は客足を狂わせてしまったと感じている。暑い寒いということよりも、晴天の日の客足と、曇り・雨の日では極端に客足は違っている。また、例年と比べて予約客が減少し、飛び込みのフリー客が多かったことが客単価が減少した要因となった。
	旅行代理店	最近旅行の時位少し贅沢をしようという動きが見られない。いかに費用を少なくして旅行をするかを第一に考えているように思われる。
	ドライブイン	大手スーパーの進出などがあり、そのなかで産直コーナーが設けられるなど競合が生じている。
	ゴルフ場	パブルの後遺症があまりに大きく、長引いているため、全体的に閉塞感に陥っている。
	レジャー施設	イベントを実施しないと人が集まらない。
	レジャー施設	個人資産の運用について、最近投資信託や個人年金保険などに投資しているという話をよく聞く。
	企業関連	理・美容店
理・美容店		ただ待っているだけではなくて、出張して業務を行うサービスなども検討する必要がある。
クリーニング店		近所の商店で9月に2店舗閉店する。
水産業関係者		金融機関の融資があまりスムーズに行われていないため、代金の支払が大きく遅れている。
製造業(食品)		販売店の販売単価下落のしわ寄せが製造業に出てきており、リベート及び販売費の増加が見られる。
製造業(一般機械器具)		大幅なリストラを実施する話を聞く。
製造業(電気機械器具)		原材料(鋼材)の値上げ要請が来ている。
製造業(電気機械器具)		同業者の間でも、この先受注が増加するという話はなく、むしろ減少するのではないかという話が聞かれる。
製造業(輸送用機械器具)		長期金利が、急上昇しているのが不安である。高校の進路指導の先生に会ったが、女子生徒の就職が大変で、トップクラスの成績でも本人の希望する職種がないとのことである。
非製造業(金融業)		運送業において、10月より排ガス規制に対処するための設備費用が、ここへきてかなり負担となってきている。
非製造業(不動産業)	小売業の閉店セールや廃業の情報がまた耳に入るようになってきた。	
非製造業(情報処理サービス)	アプリケーションの開発について、技術力の高い東京のソフトウェア開発会社に地元業者は見積競争で負けるケースが目立っている。地元業者は、社員の技術力を向上させる必要がある。	
雇用関連	学校就業関係者	スーパーマーケットで深夜営業をする店舗が増えているが、深夜でも買物をする客が増加しているように感じられる。
	雇用相談員	パート社員(20人)だけで自動車用部品を製造している事業所において、製造単価を安くするため半数を内職にシフトする計画を進めている。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	水戸地区ではメガモールの話が大きい。賛否は別にして、もしできたら水戸の商店街は大きな打撃を受けると思われる。また、商圏を30kmに想定しているようであるが、他地域の開発事業とのバッティングが予想される。
	商店街代表者	通行量が少なく、来街者も減少している。
	百貨店、総合スーパー	ハッキリと目的を持って来店する客が増加している。
	百貨店、総合スーパー	「物を買う」という行動を潜在的欲求として持っている一部の客については、若干購買意欲が出てきた感じがする。
	スーパー	3月から8月の上期を終えて、9月からの下期の予算が下方修正された。
	スーパー	夏の低温、秋の高温により消費動向が変化している。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	子供が大学等で離れてくらししている友人・同僚と話をしていると、本当に皆生活を切り詰めていることが分かる。
	農産物直売所	商品を卸している業者の話では、40才以上の定期昇給がなく、手当も廃止等厳しい状況にあるとのことである。
	ガソリンスタンド	株価の上昇で来年は景気が良くなってくると思うという事業主からの声が聞かれる一方で、給与が上昇しないので、節約ムードは変わらないという客からの声が聞かれる。
	割烹料理店	食文化に対しての本物志向は低くなりつつあり、安価な部分だけを追っている人が多くなっている。
	レストラン	従業員にも元気がなくなってきた。
	レストラン	サークル活動を行っている中高年の女性のグループが、反省会を兼ねて食事をするのが目立つようになっている。
	都市型ホテル	客の話でも、夏の賞与が減少したなど景気回復の話は聞かれない。
	旅行代理店	個人・グループによる安・近・短の旅行が増加しており、長期旅行は減少している。ITの普及と顧客嗜好の多様化により、旅行会社の経営環境に変化が見られる。低コスト経営に向けた旅行会社のサバイバル競争は今後も続いて行くと思われる。
	タクシー運転手	貸しビルの空き室が目立っている。また、スナック等の客は少なく、料金の安い大衆酒場の利用客は多いようである。
	タクシー運転手	タクシー業界でも今までのような順番待ちではなく、客の指名を取れる優良運転手を育てる教育が大きな鍵になるのではないかと思われる。
	ドライブイン	昔と違いお土産を沢山購入する客が減少している。
	ドライブイン	水戸メガモール計画の話題が各方面から聞かれる。
	観光名所	地元商店街でシャッターが下りているところが目立っている。また、平日は観光客がまばらである。
	ゴルフ場	プレーを予約した後、料金に関する問合せをする客が増加している。なかには、料金を確認した後、予約を取消す客も見られる。
	レジャー施設	各種イベントの参加者の動向を見ると、多少の収入減があっても好きな遊びに関しては、年配者を含め労力やお金を惜しまないという印象を強く受けた。
建築設計事務所	東京の再開発（汐留、六本木ヒルズ）を見ると中央と地方の景気の格差を感じる。笠原地区のショッピングモール出店等の今後の動きに注目したい。	
企業関連	農業関係者	米の作柄不振による収穫量の減少、庭先単価の上昇により、集荷率の低下が心配される。
	製造業（出版・印刷業）	長い不況の影響で、資金繰りの悪化が目立つ企業が増加している。
	製造業（金属製品）	受注量の減少のため、同業者が廃業するという話を聞いた。
	製造業（一般機械器具）	機械関係の同業者も少しずつ忙しくなってきた。
	製造業（一般機械器具）	最近開催された関係する展示会において、今年は例年になく入場者数が多く、設備投資の動きが出てきたのではないかと感じている。
	非製造業（建設業）	支払条件が、以前は着工10%・竣工90%というケースがあったが、最近3回払等支払条件は良好に改善されている。
	非製造業（広告代理業）	広告代金の支払に、遅れが増えてきた。以前なら支払サイトを守っていた会社も数日ずれて入金という状況も目立つ。大げさかもしれないが、支払が遅れても「悪い」という意識すら感じさせないクライアント（広告主）も増加している。
非製造業（コンサルタント業）	独自性のある店、ターゲットを絞っている店は好調である。	
非製造業（情報処理サービス）	中国新幹線の受注が取れると大きな特需が期待できるという話が聞かれる。	
雇用関連	雇用相談員	サービス業、医療・福祉の求人数が目立っている。中高年の雇用条件が厳しい。雇用調整が大企業を中心に進んでいたが、中小の地場産業にまで浸透している。また、調整による雇用を受け入れる余地が少なくなっている。
	求人広告	夏のアルバイト、派遣・請負の新製品時期の雇用など一時的な求人が多い。
	学校就業担当者	古本屋の古本の価格が減少している。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	小売業（金物店）	大手ハウスメーカーの進出により、地元建築業者が打撃を受けている。
	商店街代表者	先日大型店が開店し、30万円もするマッサージ器が50台売れたとのことである。確実な景況感があればお金は使われる。
	スーパー	サンマの豊漁により安値が続いており、一日で100箱売れたこともある。一方で、米の価格がどうなるのか心配であるという声を聞く。
	小売業（酒類）	お盆商戦は、ギフト関連の売上げが前年に比べて伸びず、果実の箱売りもそれほど動いていなかった。
	衣料品販売店	ショッピングセンターのテナントの閉店セールが目立っており、空きスペースが増加している。訪問販売や電話でのセールス件数が多くなっている。
	家電販売店	100円ショップが目立っている時代になっている。
	自動車販売店	仕事を行っていくうえで、客に対しての目に見えないサービス、メンタル面等が非常に影響があると感じている。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	書店	大型店や飲食チェーン店の出店が増えており、ますます商店街への来客が減少している。
	スナック	消費が非常に小さい部分にまで向けられている。
	観光型ホテル	同系列の施設で閉鎖が決まった施設がある。
	観光型ホテル	3か月先を予定してレジャー等の日程を決めるのは困難であると思われる。
	小売業（菓子販売店）	周りの商店がどんどん閉店している。また、残っている店も老夫婦だけでやっており、後継者がいない所が多い。
	タクシー運転手	あやめまつりの期間中でも旅館・ホテル等で閉店したところがあった。
	観光名所職員	お土産では物よりも食べ物を購入する客が多い。
	洋食食堂	デフレと言われる時期が続いており、「安いから売れる」という時代は既に過ぎたと思われる。客に支持される「品質」を提供していくことが第一であり、キーワードだと思う。
	割烹料理店	商店街の人通りが少なくなり、閉店時間が早まってきている。
	ゴルフ場	阪神優勝による経済効果以外で期待できることがない。
	パチンコ店	20代及び50代以上の客の構成比が高くなっている。
	レジャー施設	季節（四季）のある日本では、天候不順が景気動向を左右する要因の一つとなっている。それに動じない基盤を作ることが必要でないかと思われる。
	喫茶店	セットメニューを目玉に商売をしているが、コーヒー単品の注文が目立ち、客単価が減少している。
	理・美容店	ホテル・旅館の閉店があったがビジネスホテルは繁盛している。ショッピングセンター内の数店のテナントが閉店し、駐車場に空きが目立つ。
	室内装飾業	規制緩和が進みすぎているため、小規模店舗に客が来ないという話が聞かれる。
ドライブイン	客は量より付加価値を求める傾向にある。野菜を例に挙げると、「減農薬」「朝どり」「地元産」「生産者名」などの情報を表示することにより多少価格が上がっても売行きは好調である。情報により商品への付加価値が明確になり、安心して購入できるのだと思われる。	
企業関連	水産業関係者	漁業協同組合連合会の倒産で、設備投資に消極的にならざるを得ない。
	製造業（窯業・土石製品）	事業団の管理する施設が不況により売却されるとのことである。
	製造業（電気機械器具）	家計が圧迫しているため、妻帯者は外で飲む回数を減らしていると思われる。このため、居酒屋は客の入りが悪いと嘆いており、同様にタクシー業界も最悪の状況だと聞いている。しかし、運転代行業は新たに開業しているところが多い。飲酒運転防止の効果と言えると思う。
	製造業（飼料製造）	大企業の設備投資に回復の兆しがみられるが、中小企業関連ではあまり工事も無く、修繕工事でも多くの業者が集まる状態である。
	非製造業（輸送業）	SCM（サプライ・チェーン・マネジメント）に徹した低コストでスピーディーな経営がますます確立されてきている。また、顧客のシステムに合せた対応がカギとなってきている。
	非製造業（不動産業）	鹿行地域に立地している企業の景気が上昇しているという話を聞くので、その波及効果を期待している。
雇用関連	公共職業安定所	管内企業に対するアンケート結果で、回復予想時期を「来年春・夏以降」とみる回答が見えはじめたが、8割を超える企業が「予想できない」としている。
	雇用相談員	倒産したのか、移転したのか分からない事業所が目立っている。

（４） 県南地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	一部の年配客は、「年金の支給開始年齢がまた延びるのでは」と心配しており、将来の年金に対する不安で消費を控えている。
	スーパー	かなり単価の高い商品も以前よりは動いてきている。
	スーパー	天候が悪く、通常の売れ筋商品の動きが鈍く、意外な商品が売れるなど、担当者は発注に苦しんだ夏であった。
	スーパー	高校3年生のアルバイトに就職状況を尋ねると、就職希望者全員分の求人数はきていないと言っていた。
	コンビニエンスストア	一人当たりの客単価は依然として前年割しており消費者の購買意欲に変化がない。
	衣料品・身の回り品販売店	近くに大型店が10店舗開店したことによって、地元の商店は売上げが落ちており、これからは不安である。
	家電販売店	子供に必要な商品は購入するが、自分たちが欲しい商品は買控えている親が多いように感じる。
	自動車販売店	製造業が忙しくなっているようであるが、長続きするか不安に思っている従業員もいる。
	ガソリンスタンド	セルフSS（ドライバーが自分で給油するSS）がこの1年間で急激に増加している。ただし、セルフ改造するにもかなりの金額の設備投資を要する。
	洋食食堂	相変わらず希望退職やリストラの声が多く聞かれる。また、仕事が見つからない人も多いように思える。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	洋食食堂	歯医者・建設業・サービス業・印刷業において、勝ち組と負け組の結果がでている。
	和食食堂	不況の中でも、競合店は増加しており、客は店を選んでいる状況である。また、平日の夜の来店客が少し減少している。
	都市型ホテル	商品の値引きを希望する客が増加している。インターネットによる宿泊予約が増加し、空き室状況により単価を500円ダウンさせると、かなりの予約数が取れる。
	旅行代理店	物販（特に衣料関係）で在庫が残っているようである。
	旅行代理店	インターネット利用が増加している。世間では景気が良くなりつつあるという回答が見受けられるが、旅行業界は半年以上遅れており、景気が良くなりつつあるとは感じられない。
	タクシー運転手	町内の飲食店街の活気がない。最終電車で間に合うように帰宅する人が多く、深夜のタクシー利用者が少なくなっている。
	タクシー運転手	タクシーよりも運転代行を利用する客が多い。
	タクシー運転手	商店街の活気がなく、人通りも少なくなっている。
	タクシー運転手	飲食店からの利用依頼が急激に減少している。
	タクシー運転手	病院への行き来に自家用車を使用している人が多く、タクシーはあまり利用されない。
	ゴルフ場	株式相場の上昇傾向により、来場客も良くなってきている。
	パチンコ店	ボーナスカット等によるサラリーマン層の減少がおきないか心配している。
	理・美容店	特色を生かし努力し続けている店舗は着実に業績を伸ばしている。
企業関連	農業関係者	デフレで安い商品が出回っているが、購入したいと思える商品がない。
	製造業（食品）	リストラや冷夏の影響があるのか、スーパー等の動きを見てもまだ特価目玉販売から脱していないように思われる。
	製造業（食品）	納入業者で人員縮小がある。また、飲食業はあまり良い話が聞かれない。
	製造業（食品）	地元の売上げが不振である。
	製造業（食品）	景気が悪いなかで、金融機関の金利が上昇しているのが不安である。
	製造業（食品）	野菜の価格が高くなりはじめている。飲食チェーン店の新規出店が目立っている。
	製造業（コンクリート製造業）	セメント・鉄筋・砕石などの原材料価格は堅調に推移している。
	非製造業（建設業）	最近人々の話題も以前よりは明るくなっているような気がする。
	非製造業（建設業）	不景気が長期間続き建築工事の仕事がないため、日本独自の伝統建築技術が絶えるのではないかと不安である。
雇用関連	非製造業（金融業）	企業の代表者や個人事業主は現状を守ることに精一杯で、積極的な経営に向かう気持ちが感じられなくなっている。
	人材派遣業	顧客先よりコスト削減の要求が著しい。業者数が多いうに、他社との差別化が難しい業界でもあるので、内部コストの見直し等抜本的なコスト削減を行わないと、競争に打ち勝ってゆけない状況になりつつある。
	求人広告	ガソリンの価格が高いように思われる。
	公共職業安定所	不良債権処理に伴う人員整理が一部懸念される。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	中心市街地の何代も続いた老舗が廃業し、店舗は取り壊され、住宅地として転売されている。
	商店街代表者	最近大型店の深夜営業が増えている。また、中小店舗も閉店時間を延長しているところが目立っている。
	スーパー	ボーナスに対する社会保険・厚生年金の控除額が思った以上に大きく、買い物を控えてしまうという客の意見もある。
	スーパー	自動販売機（たばこ）がケースごと盗まれるなど、最近、店への犯罪が増えている。世の中が暗いので、このような悪いことが増えているのであろうか。
	家電販売店	一商品の単価の下落により、性能の良い商品と中間消費の比較が困難となっており、単価アップによる売上増に繋げにくい状況である。
	ガソリンスタンド	駅前ビルの再開などによって、旧市内にも徐々に人が戻ってくると思われるので、リピーターを確保できれば景気は良くなっていくと思われる。
	洋食食堂	旧店舗を取り壊し、心機一転頑張っている。店が良くなれば客もついて来てくれることが分かり、積極的な攻めの営業が功を奏したと考える。
	和食食堂	客単価が70円から80円減少している。
	一般食堂	24時までの営業を始めたスーパーがあり、近くのコンビニエンスストアの売上げに影響がでているようである。
	都市型ホテル	宿泊料金の低価格が、これからの経営で問題になってくると思われる。
	旅行代理店	業種によっては、忙しくなってきたという話も聞かれるが、全体的にはあまり変わっていない様に思われる。
	ドライブイン	大型バスの利用者は多いが、トイレだけ利用するケースが多く、なかなか売上げに結びつかない。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	ドライブイン	インターネットを見て来てくれる個人客が少しずつ増えているが、近くに観光するところがないので頭が痛い。
	ゴルフ場	価格が数年前に比べてかなり減少したため、以前には見られなかった若年層の利用が見られる。また、定年退職した客の利用が増加している。
	ゴルフ場	土曜日の来場者数が低迷していることから、特にサラリーマンを中心としてゴルフをする元気が依然としてないのではないかとと思われる。
	レジャー施設	阪神タイガース優勝でTV・新聞・雑誌で景気が上向きになると報道されているが、阪神グッズを購入する姿を見かけるなど人間の心理を変えてしまう力があるのに驚いている。購買意欲が沸き立つ内容の報道をすれば何かが変わるのではないかとと思われる。
	理・美容店	まだ先のことであるが、消費税の改正により消費税納税義務対象となる店舗が多くなり、また、総額表示に変わることになるため、業界全体がざわついてきている。
	クリーニング店	アウトサイダー店がしきりに広告を出すので、来店客が減少しないか不安である。
	建築設計事務所	景気が悪いためのなのか、近所で盗難事件が複数発生した。
企業関連	製造業（食品）	交際費予算は大幅に減少させられている。
	製造業（木材業）	在庫を常備するよう、仕入先から勧められている。（仕入先の売上につながるため）
	製造業（石材業）	業態を変えるなど、皆努力をしている。今は努力しなければ仕事は取れない。
	製造業（電気機械器具）	これまでは待ちの姿勢が強かったが、生き残りをかけて各社が次の一手をと動きが出てきているように思える。
	製造業（輸送用機械）	中小企業の受注量が増加しているように思われる。
	非製造業（金融業）	強い事業所と弱い事業所との財務内容の差が大きくなっている。
	非製造業（不動産業）	年配者及び若い人が売買物件を捜している。（従来は40代前後が多かった）
	非製造業（広告業）	クライアント（広告主）の要求が細くなっており、納品までの時間が足りない。このような状況でクライアントの販売促進につながるよう日々葛藤している。
	非製造業（コンサルタント業）	地元の大工・工務店の建築着工が動き始めている。
雇用関連	人材派遣業	資質に恵まれている人材が少ない。
	求人広告	求人企業は2・3年前と比べて増加してきているが、欠員による募集や求めている人材がなかなか採用できないことによる求人が多い。求職者と企業の不一致が多いようである。
	公共職業安定所	2～3年ぶりに採用募集を再開する事業所が目立ってきている。また、建設業等異業種より介護サービスへの参入が見られる。